参考資料 1－1

2025年を見据えた自医療機関の役割及び4機能別の病床の変動について

No.	医療機関名	設置主体	2025年を見据えた自医療機関の役割（病院からの回答）	現状（R2.7.1時点） 機能別病床数 ①（病院からの回答） 合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	非稼動	2025年 機能別病床数 ②（病院からの回答） 合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止等	介護医療院への転換	現状と2025年の病床数の増減 ②－① 合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止等	介護医療院への転換
1	大垣市民病院	公立	・西濃医療圏域における高度急性期医療及び急性期医療（救命救急、災害拠点、がん拠点、周産期、小児救急等）の中心的役割を担う。	857	283	507			67		857	283	507			67		0	0	0	0	0	0	
2	西美濃厚生病院	公的	・西濃医療圏にある当院(養老町)と揖斐厚生病院（揖斐川町）の病床再編を行い、大野町に急性期・回復期を中心とした新病院を建築(2023年開院予定)する。 ・西南濃地域の医療・介護需要を見据え、令和2年4月に慢性期病床の一部を介護医療院へ機能転換を行った。新病院開設後は病床数を縮小し回復期・慢性期を中心とした医療・介護提供体制を担う。 ・へき地拠点病院として上石津診療所へ週5日医師派遣を行っており、引き続きへき地医療の充実に努める。 ・西濃地域は、地形的要因から特に西南濃地域は水害の危険性が高い。こうした中、東海東南海地震発生時には水害の恐れがある海津市医師会病院と災害時における「応急物資の支援」「人員の派遣」「入院患者及び傷病者の受け入れ」等が円滑に行えるよう相互支援に関する協定書（平成31年1月1日締結）を締結し、大垣市民病院以南地域（西南濃地域）の医療提供体制の確保を図る。 ・他、次の役割を担うべく取り組む。 「地域に必要とされる診療体制の維持」「救急医療体制の維持」「災害時の医療提供体制の維持」「地域医療機関等との連携の推進」「予防医療の促進」「地域包括ケアシステム構築に向けた取組みの推進」「新型インフルエンザ等特別措置法に基づく指定公共機関としての体制の確保」「新型コロナウイルス患者受入にかかる体制の確保」「鳥インフルエンザ、CSF（豚熱）等、感染症にかかる体制の確保」	259		120	60	60	19		140			105	35			▲ 119	0	▲ 120	45	▲ 25	▲ 19	
3	揖斐厚生病院	公的	・西濃医療圏に所在する当院と西美濃厚生病院（養老町）は、地域医療を継続的・安定的に提供していくため、段階的に病床再編を行い、急性期・回復期医療を中心とした新病院を揖斐郡大野町下磯付近に建築(2023年10月開院予定)することとしている。 ・新病院においては、救急医療・がん医療・へき地医療・災害医療等の医療提供を行う医療機関として計画を進めている。また、西濃医療圏には緩和ケア病棟が無いことから、その整備も計画している。 ・大規模災害発生時においては、地域の中核病院としての診療機能が維持出来るよう、災害拠点病院の基準を満たした施設の整備を計画している。 ・感染症患者の受入れを想定した陰圧管理が可能なエリアの整備を計画している。 ・新病院開院後の揖斐厚生病院については、耐震基準を満たしていない本館棟は解体を予定とするとともに、病棟・健診センター等耐震基準を満たしている建物の有効活用を前提に、医師の確保状況を踏まえて、維持する医療機能・介護機能等に関する検討を行う。 ・当院と西美濃厚生病院の再編により、両病院の合計病床数は下記の通りとなる。 ・西濃医療圏で過剰である高度急性期・急性期・慢性期病床を減床し、不足する回復期病床を増床する計画であり、また全体の病床数も減少（令和2年4月より西美濃厚生病院の56床を介護医療院に転換済）することから地域医療構想に沿った計画としている。	281	15	159	55	52			0	0	0	0	0			▲ 281	▲ 15	▲ 159	▲ 55	▲ 52	0	
9病院計				1,397	298	786	115	112	86	0	997	283	507	105	35	67	0	▲ 400	▲ 15	▲ 279	▲ 10	▲ 77	▲ 19	